

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷中】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。</p> <p><指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習を、全体指導で設定しにくく、また個別指導が十分に確保できない。</p>	⇒ ドリルパークやスタディサプリを活用 テスト前学習会や質問会の実施 授業時間内での復習の時間や演習の時間の設定 定期テストでの習熟度の確認
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 「思考判断表現」の記述式問題の正答率が二極化し、要点を押さえての回答に課題がある。</p> <p><指導上の課題> 知識・技能に二極化がみられるため、授業時間内での個別指導が十分に確保できない。</p>	⇒ 各授業でオクリンク等を活用した、自他の意見を発信・共有する「学び合い」の実施 授業終了での「自己の振り返り」の時間の実施 プレゼン力向上(声の抑揚や話すスピード、間の取り方など)基本スキルの習得

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	「教科に関する調査」の問題別調査結果において、数学では知識・技能の正答率に二極化がみられた。また、休日3時間以上勉強する生徒の割合は、全国・県よりも高い一方で、休日全く勉強をしない割合が全国や県に比べて高く、家庭学習時間においても二極化がみられた。このため、家庭学習の定着も本校の課題の一つと考えている。	
思考・判断・表現	「教科に関する調査」の領域等別平均正答率において、「A 話すこと・聞くこと」の項目で、本校の数値がほかの内容と比べて全国(公立)との差が小さかった。日頃より、授業においてプレゼン力の向上を目指し、「対話的な学び」に取り組んでいる成果の一つとらえている。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	各授業で、ドリルパークやスタディサプリを活用することができた。毎回の授業内で行うことはできなかったが、設定した時間で内容の復習をすることができた。授業時間内での復習・演習の時間を設定することができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各授業終了での「自己の振り返り」の時間の実施をすることで、本時の内容の再確認ができ、次授業の導入もスムーズに行うことができるようになってきている。 「対話的な学び」に力を入れた授業を行うことで、プレゼン力の基本スキルの習得につながっていると考えている。 一方で、各授業でオクリンク等を活用した授業は、教科によって、実施に差がみられるため、職員研修等を実施していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)